

## 1. 通学路線の安全対策について

2番、佐藤安美です。中居町長の施政方針演述に関連し、通告に基づきまして一般質問を行います。

中居町政2期目のスタートに当たり、少子化の中での子供たちの安全対策の一端について問題提起します。コロナの猛威は予測不能の状況にあり、その対策についても予断を許さないところであります。一日も早い終息を願うばかりです。子供たちを守るためにあらゆるリスクを想定し、出来る限りの対処をしていかなければなりません。

その中で、大川、釜津田地区における通学路の安全対策について伺います。

大川小学校と釜津田中学校が令和3年度をもって閉校になり、それぞれ岩泉小学校、岩泉中学校に統合となります。通学はスクールバス対応という事で関係各位は新たな日常に様々な期待や不安を抱えています。

特に大きな不安材料は、通学路の安全性であります。県道については、道幅が狭く、カーブが連続し、車両のすれ違いに支障をきたす箇所が多く点在します。大川地区道路整備促進期成同盟会では、道路改良がなかなか進まない中で、せめて待避場所の設置をお願いしようと岩泉土木センター

立ち会いのもと新設場所を確定し、令和3年度内の事業完了をお願いしました。しかし、スクールバス運行開始まで一カ月余りという時期にきて、思うように進んでいないように見受けられます。

町道については、大川地区2路線、釜津田地区1路線が急勾配で冬季の安全確保が困難な状況にあります。雨上がりの早朝はスケートリンク状態となり、単独事故は少なくありません。

さらに、令和2年度で釜津田保育所が休止となり、釜津田地区の保護者は岩泉地区と小川地区のこども園に自家用車での送り迎えをしている実態があります。こがわこども園へは林道八戸・川内線の穴沢、上外山区間を通っています。冬の穴沢側斜面は地獄の通園路と言っても過言ではありません。

このような状況は最低限子供たちを守るという観点から、何より優先して対応するべきではないでしょうか。

少なくとも予測可能な事態でありますので、どのように対応するのか、中居町長の心からの答弁を期待します。

## 2. 長時間スクールバスの体制について

次に、前代未聞の長時間スクールバスの実施に向けた、

フォロー体制について教育長に伺います。

これまでのスクールバスと同じ子供たちの送迎とその安全対策に加え、それ以外の配慮はありませんか。

初めての長時間スクールバスの実施に際し、保護者と学校を交えて、通学時間の有効利用に可能性を求める取り組みを実施するべきであります。時間があるからこそ取り組めることもあるのではないのでしょうか。後になって、あのスクールバスでの時間が有意義だったという形を作ることにはできませんか。ぜひとも、挑戦してもらいたいと思います。

その実現によって、長時間通学のハンディがメリットに変わります。難しいことは承知していますが、今の少子化時代に即応した新たな試みとして、大いに価値あることだと思います。

教育長のご見解を伺います。

以上で本席からの質問を終わります。

## 2番 佐藤 安美 議員の御質問にお答えします。

まず初めに、大川小学校と釜津田中学校の統合に伴うスクールバス通学路の安全確保のための待避所の設置状況についてであります。

通学路線である国道340号と一般県道大川松草線への待避所の設置に当たっては、大川地区道路整備促進期成同盟会から岩手県に36か所の候補地が情報提供されております。

その後、県において現地調査を行い、設置可能な場所については、本年度から計画的に整備する予定となっており、本年度10か所、来年度以降に8か所の合計18か所を整備する予定と伺っております。

町といたしましては、本年度の県への統一要望の中で、同路線の改良整備とともに、新たに待避所の整備を要望しておりますので、引き続き早期整備を強く要望してまいります。

次に、町道川崎線、林道下町宇津野線などの山間部の道路や林道八戸・川内線の穴沢・上外山区間の除雪体制については、山間部を通る道路であるため、急こう配や急カーブが多く、また日照条件によっては除雪後にアイスバーンになることは確認しております。

このことから、早期の除雪が必要と認識しており、委託業者に一定量の降雪が予想される場合には、事前に出動要請をしているほか、御指摘のアイスバーンの対策として、できる限り速やかに凍結防止剤や砂の散布作業などに努めているところであります。

今後においても、安全な通行を確保するため、除雪体制を強化するとともに、気象情報や道路状況をきめ細やかに把握し、早期の凍結防止剤や砂の散布等、引き続き必要な対策を講じてまいりますので御理解をお願い申し上げます。

以上で答弁を終わります。

なお、「長時間スクールバスの体制について」の御質問は教育長から答弁いたさせます。

## 教育長答弁

「長時間スクールバスの体制について」、御答弁申し上げます。

来年度の大川方面におけるスクールバスの運行につきましては、閉校する大川小学校と釜津田中学校の児童生徒は、それぞれ単独便として乗車いただく計画であります。

運行区間の最長は、唐地から岩泉中学校までの約38キロメートル、乗車時間にして約1時間を見込んでおります。

通学時間を有効に活用するための方法につきましては、議員御提言のとおり、私も何らかの対策が必要であると考えております。

車内で実施可能と思われる学習としては、音声教材を使った英語などのリスニングや、大型モニター

での教育や教養の映像視聴などが考えられるところ  
であります。

いずれにいたしましても、スクールバスでの長い  
通学時間を有効に活用していくための手立てにつ  
きましては、保護者や児童生徒の意向を尊重しつ  
つ学校とも連携しながら、引き続き検討してまい  
りますので御理解をお願いいたします。

以上で答弁を終わります。